

## 第7回関西みみはなのど治療研究会



皆様方におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

毎年9月の第一土曜日に開催している本研究会ですが、今年も9月5日土曜日に大阪中之島・リーガロイヤルホテルにおいてMSD(株)との共催で開催させていただきました。ご多忙にもかかわらず、ご参加いただきました先生方には改めて御礼申し上げます。

今回は特別講演を2題とさせていただきました。一題は、京都大学耳鼻咽喉科の山本典生先生に「人工内耳の歴史と未来」について、もう一題は東京慈恵会医科大学の松脇由典先生に「嗅覚障害の診断と治療」について、非常に興味深いお話を伺いました。以下に、内容について簡単にご報告いたします。

### ◆一般演題

#### ◎一題目「当院における短期滞在手術の現況」

演者 廣芝新也・荻野枝里子(ひろしば耳鼻咽喉科)

皆様方のご支援ご協力のお蔭をもちまして、手術センター立ち上げより5年が経過しました。改めて御礼申し上げます。私にとっては、過ぎてしまえばあっという間でしたが、内容を振り返ると非常に濃密な期間でもありました。特に今回は5年間の振り返りという意味で、中耳真珠腫の手術成績と痙攣性発声障害の手術成績について、ご報告させていただきました。また、嗅覚外来を担当している荻野枝里子医師より、当院における嗅覚外来の現況についてもお話しさせていただきました。過去5年間の手術症例数については、表の通りです。昨年の手術室増設もあり、昨年は450症例あまりの症例数となりました。同時にスタッフを動員し、できるだけドロップアウトしないように、患者さん方の術後のフォローアップを行っております。

真珠腫新鮮例の手術成績については、結果から申し上げますと、真珠腫遺残率は約5%、聴力改善または維持できたものが、評価対象の84%と、数字上は良好な結果でした。当院ではほとんどをcanal wall upで行っており、canal wall downとした症例と比べ患者さんのQOLも良いと言えますが、術後の観察期間がまだ短いため、今後再形成性真珠腫についても注意しながらフォローする必要があります。痙攣性発声障害に対する甲状軟骨形成術Ⅱ型の手術成績についても、他の手術法と比べても良好な結果でした。ただし、客観的に音声改善されているように見えても、患者さん本人は満足していない例や本手術を行ってもあまり効果がない例もあり、良好な群と比較してどのような違いがあるのかは今後の検討課題です。

昨年からは開始した嗅覚外来ですが、鼻科学会の重鎮の諸先輩方の薫陶を受け、少しずつ形になってきております。嗅覚障害そのものを主訴とする患者さんの数は決して多くはありませんが、まずは嗅覚障害の鑑別をすることが重要です。聴覚よりも「原始的」な感覚であるためか、発症後長期間経過していても治療により改善する例も少なくありません。鼻腔内にポリープが見られなくとも、中鼻甲介のbullaや鼻中隔彎曲があるだけでも嗅覚は低下することもあり、また最近では嗅覚障害の原因として最も多い好酸球性副鼻腔炎も増加しています。外来で嗅覚障害の患者さんの対応にお困りであれば、ご紹介いただければ幸いです。



演者 廣芝新也

さらに当院の現況としてご報告するべきは、この5年間副院長として当院を支えていただいていた田村芳寛先生が、独立開業されるため、この8月末で退職されました。田村先生は京都府木津川市で10月半ばより新規開業される予定です。当院にとっては戦力ダウンですが、発展的契機と捉え、田村先生とも協力しながら地域の患者さん方に貢献できるよう頑張りたいと思います。(文責：廣芝)

## ◆特別講演1

「人工内耳の歴史と未来」  
座長 岩永迪孝先生

演者 山本典生 先生（京都大学耳鼻咽喉科助教）  
（京都みみはな手術センター 所長）



演者 山本典生先生



座長 岩永迪孝先生

人工内耳は、ある一定年代以上の先生方にはなじみが薄いと推測します。私自身、京大病院での研修医の際に2、3名の患者さんの主治医を持っただけで、それ以降の進歩については正直なところ身近に触れる機会はありませんでした。今回は京都大学耳鼻咽喉科で人工内耳の手術を、京都大学耳鼻咽喉科で中心となって行っておられる山本典生先生にご講演いただきました。

人工内耳は最も成功した人口の感覚器と言われているそうです。たしかに内耳に電極を挿入するだけで、ある程度の言葉まで聴取できるようになるというのは、改めて考えてみると信じがたいくらい不思議です。脳の可塑性が高い小児に行くことは理に適っていますが、山本先生の話で初めて気が付いたことは、1、2歳の乳児に手術を行う場合は、少量の出血であっても乳児の循環血液量を考えると決して少量ではない、ということです。側頭骨も成人に比べて少し削開しただけでも出血しやすく、またワーキングスペースも限られます。蝸牛に電極を入れるという手術操作自身はある程度定型的なものであると考えていましたが、小さな側頭骨を顔面神経に注意しながら、出血をごく少量でコントロールして手術を完遂する、というのは、かなり難しいと感じました。また人工内耳のデバイス自体も日進月歩で進化しつつあり、初期の MPEAK のデバイスに比べ、SPEAK のデバイスでは、かなり語音聴取が向上したことも、講演の中で実際の音声を聞いて実感できました。言葉に比べて、音楽を聴取することには依然課題もあるようですが、ここ数年のデジタル機器の進歩を見ると、更なる進歩も期待できそうです。また現在わが国では補聴器の装用効果がない両側の高度難聴症例が適応となっていますが、海外では高音急墜型の難聴や一側性の難聴にも手術が行われているようで、いずれ我が国でも適応が拡大することが予想されます。医療の世界でも、デジタル機器のように治療の革新のスピードが増しているのを実感しました。非常に貴重なお話でした。（文責：廣芝）

## ◆特別講演2

「嗅覚障害の診断と治療 —アレルギ—性鼻炎、感冒等で鼻の利き落ちてませんか?—」

演者 松脇由典先生（東京慈恵会医科大学 講師）

座長 村上匡孝先生（耳鼻咽喉科村上クリニック 院長）

松脇先生には様々な嗅覚障害の診断から治療、そして嗅覚障害をきたすことの多い好酸球性副鼻腔炎について詳しくお話いただきました。嗅覚障害はまず部位の診断が重要ですが、呼吸性嗅覚障害の診断には、日常診療で使用しているボスミンを利用して嗅裂への通気を良くすることで嗅覚が改善するかを調べるテストが有用であることを教えていただきました。また、他の嗅覚障害については多くの実際の症例を呈示していただきながら詳細に説明していただき、嗅覚障害の診断には背景、現病歴の詳細な問診が重要で、常に障害部位を意識した診断、治療が大切だということを実感しました。好酸球性副鼻腔炎に関しては、診断ガイドラインの説明から実際の治療のポイントまで長年の豊富な治療経験を踏まえたお話をしていただきました。松脇先生には本講演の抄録までいただいておりますので以下に掲載させていただきます。（文責：荻野）



演者 松脇由典先生

五感の一つである嗅覚は、ヒト以外の哺乳類にとっては獲物（食物）の獲得、異性の判別（子孫を繋ぐ）に重要な感覚能であり、その減退あるいは損失は生命の維持や

子孫の衰退といった危機的な状況を招く。現代人にとっての嗅覚障害はこういった生命の維持や子孫繁栄には直接影響しないが、食事、飲み物、香水やアロマなどの風味や香りを楽しむことや、火事やガス漏れなど生命危機に関わる察知の遅れなど、QOLの低下に大きく関与している。

嗅覚障害の5大原因疾患は、慢性副鼻腔炎（約34%）、感冒罹患後（約20%）、アレルギー性鼻炎（約6%）、頭部外傷後（約6%）、薬剤性（2%）である。特に慢性副鼻腔炎のうち嗅覚障害を発症初期より有し、さらに重症化する好酸球性慢性副鼻腔炎が臨床上問題となっている。慢性鼻副鼻腔炎による嗅覚障害はその罹病期間が長ければ長いほどその予後は不良であり、長期にわたる呼末梢性嗅覚障害が持続した場合、廃用症候群により中枢性嗅覚障害を併発し、高度の嗅覚障害や嗅覚脱失症をきたすと考えられておりより早期の診断と治療が求められている。2番目に多い感冒罹患後嗅覚障害は、嗅粘膜あるいは嗅神経に細胞障害がおこっていると考えられる。かつては治りにくいとされていたが、早期の抗炎症治療と当帰芍薬散の使用により約64.2%が改善する。3番目に多いアレルギー性鼻炎の診断は国民の多くが発症している疾患であり、通常のアレルギー性鼻炎の診断の他、他の原因の除外および合併の診断が重要である。またアルツハイマー病やパーキンソン病の初期症状として嗅覚障害があり、その早期発見に耳鼻咽喉科医の役割は大きい。

本講演では、明日の診療からにもすぐに活かせる嗅覚障害の診断法と治療の実際について講演した。



座長 村上匡孝先生

## 懇親会

懇親会は、リーガロイヤルホテルのダイヤモンドルームで行われました。婚礼などに人気があり、なかなか空きがないとのことでしたが、今回はラッキーなことに使わせていただけました。先生方と直にお話しできる貴重な機会です、私自身も大いに楽しみました。来年も皆様のご参加をお待ちしております。



## 第7回みみはな Cup 於 田辺カントリー

研究会の翌日の9月6日（日）に第7回みみはな Cupを開催いたしました。毎年、名門コースの田辺カントリー倶楽部で、メンバーである村上匡孝先生のご尽力により開催しております。次回も来年の9月4日（日）に同じ田辺カントリーで開催予定です。コンパだけのご参加も大歓迎です。ご参加お待ちしております。



## 優勝者コメント

### 優勝者 松脇由典 先生

第7回関西みみはなの治療研究会に続き、第7回みみはな Cup@田辺カントリー倶楽部に参加させていただきました。あいにくの空模様でしたが、廣芝先生のご挨拶「雨の中のゴルフも楽しむつもりで頑張りましょう」に励まされ、腐ることなく楽しめました。その結果がベストスコアにつながり、ハンディキャップにも助けられ優勝することができました。どんな状況でも楽しむことの大切さを教えていただいたような気がいたします。名門田辺カントリー倶楽部にはかなりやられましたので、またリベンジの機会を与えていただければと思っております。



## 手術見学についてのお知らせ



毎年ご案内申し上げておりますが、手術見学は随時受け入れ可能です。この1年でも多くの施設から見学にお越しいただきました。開業するとどうしても手術に携わる機会が減ってしまいますが、外来診療への刺激を与える意味でも見学していただくことは有益ではないかと考えております。

現在月曜日から金曜日まで、平日は毎日が手術日となっています。原則として、耳の手術は毎週水曜日と隔週の月曜日、鼻の手術は隔週の月曜日、毎週火曜午前、木曜、金曜午前と、音声・形成関連の手術は火曜午後、木曜日午前に行っております。

この機会に、先生方のお考えやご要望をお伺いして、今後の医療活動に生かしてゆきたいと考えております。

ご希望の方は廣芝のメールアドレス (hiro@hiroshiba.com) にご連絡いただければ対応させていただきます。午前中だけ、もしくは何時から何時まで見学希望という形でも結構です。お申込みお待ちしております。(文責：廣芝新也)

## 事務長のご挨拶

### 医療法人顕夢会 事務長 山田昌彦

第7回関西みみはなの治療研究会へ多数ご参加いただきましたことにお礼を申し上げます。

当院では、副院長の田村先生が8月末でご退職・独立されましたが、音声外来や手術相談外来の曜日を増やしたり、また嗅覚外来の新設やボイストレーニングなど、新しい体制で充実した医療の提供が出来るように取り組んでおります。今後も、より一層皆様のお役に立てるよう、改善・工夫を凝らしていきたいと思っております。

研究会の翌日に開催しました「みみはなCUP」の日はあいにくの雨模様でしたが、ご参加いただいた先生方は楽しく懇親を深めていただけたのではないかと考えております。今回は少し参加人数が少なかったのですが、研究会で特別講演いただいた松脇先生が好スコアで優勝とベストスコア賞を獲得されたり、またイーグル賞が出るなど、盛り上がりのある大会だったと思います。来年も是非、多くの先生方のご参加をお待ちしております。

また、患者さんのご紹介をいただくなど、大変お世話になっております近隣の開業医の先生方のご意見をお伺いするために、適宜ご訪問をさせていただいております。先生方のご要望により一層お応え出来ればと思っておりますので、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。